

2017
平成29年度

法学部公開講座
リレー講義

法政総合 講座 C

2017年 9月20日水

?

2018年 1月17日水

《全15回》

持続可能な 地域社会の デザイン

昨年度の講義では、グローバル化の視点から、国家の変化、さらには世界の変化と地域・市民社会の関わりを見てきた。本年度は、ローカルなレベルに着目し、「北海道」における地域・市民社会のあり方に焦点を当てた講義を行う。新しい地域づくりの事例を紹介することで、持続可能な地域社会のあり方を考えたい。

受講料無料／事前申込不要 受講ご希望の方は、当日直接会場までお越しください。

第1回 9月20日水

人口減少社会の地域づくり
—スコットランドから学ぶ

内田 司

《札幌学院大学人文学部教授》

第2回 9月27日水

僕の住む町に観光客が来てくれるには

藁谷 和臣

《有限会社利尻屋みのや、小樽ゆかた風鈴まつり実行委員長》

第3回 10月4日水

若者の主体性を引き出し、地域課題に取り組む

草野 竹史

《NPO法人ezorock代表理事》

第4回 10月11日水

下川町の森から生まれた香りと地域での私たちの役割

田邊真理恵

《株式会社フブの森代表取締役》

第5回 10月18日水

WITH・DESIGN・つなぐ

安達 重好

《株式会社KITABA》

第6回 10月25日水

地域おこし協力隊事業からのひとづくり・まちづくり

桑原 稔明

《皆楽社 (KAIRAKUSYA) 代表》

第7回 11月1日水

21世紀の自治

堀 直人

《江別市議会議員》

第8回 11月8日水

公共交通とまちづくり

平澤 亨輔

《札幌学院大学経済学部教授》

第9回 11月15日水

NPOが主導する経営形態

—日本型社会的企業：地域コーポレーションモデル

加藤 知愛

《北海道大学国際広報メディア・観光学院博士課程》

第10回 11月22日水

まちづくりと「人づくり」

滝口 由美

《一般社団法人北海道中小企業家同友会くしろ事務所事務局長》

第11回 11月29日水

持続可能な社会をめざした教育的アプローチの紹介

山本 幹彦

《NPO法人当別エコロジカルコミュニティー(TEC)》

第12回 12月6日水

地域に飛び出す市民活動の実践

上仙 純也

《岩見沢市経済部観光物産振興課観光振興係長》

第13回 12月13日水

ひとづくり×まちづくり=みらいづくり

近江 正隆

《株式会社ノースプロダクション代表取締役》

第14回 12月20日水

財政破綻からの再生

～リスタートする夕張市の挑戦～

西村 宣彦

《北海学園大学経済学部教授》

第15回 1月17日水

全体のまとめ

石井 和平

《札幌学院大学法学部教授》

会場／札幌学院大学D202教室 (D館2階)
講義時間／13:10～14:40
コーディネーター／石井和平 (札幌学院大学法学部教授)
主催／札幌学院大学法学部
えべつ市民カレッジ・道民カレッジ連携講座

●お問い合わせ先
札幌学院大学教育支援課 (法学部係)
〒069-8555 江別市文京台11番地
☎011-386-8111 (内線3214、3226)
[URL] <http://www.sgu.ac.jp>



2017
(平成29年度)

札幌学院大学 法学部公開講座 リレー講義 法政総合講座C《講師紹介》

第1回 (9月20日) 内田 司 ●札幌学院大学人文学部教授

人口減少社会の地域づくり—スコットランドから学ぶ

茨城県出身。東北大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。東北大学教育学部助手を経て、1989年4月に札幌学院大学人文学部に着任し、現在に至る。専攻は、感情コミュニケーションおよび地域社会再生の社会学。趣味は、ウォーキングとトレッキング。

第2回 (9月27日) 蓑谷 和臣
●有限会社利尻屋みのや、小樽ゆかた風鈴まつり実行委員長

僕の住む町に観光客が来てくれるには

小樽市出身。小樽商科大学短期大学部卒。国家公務員を11年間経験した後、地元に戻り、現在有限会社利尻屋みのや専務取締役として北海道の特産品である昆布の専門店を経営。小樽堺町通り商店街振興組合の事務局長兼青年部会長を務める傍ら、小樽雪あかりの路副検討委員長も務める。

第3回 (10月4日) 草野 竹史 ●NPO法人ezorock代表理事

若者の主体性を引き出し、地域課題に取り組む

札幌市出身。酪農学園大学経営環境学科卒。北海道最大級の野外ロックフェスティバル[RISING SUN ROCK FESTIVAL]における環境対策活動への参加をきっかけに、2001年NPO [ezorock]設立。現在では、地域づくりや環境保全の現場に、若者の主体性を引き出ししながら、課題解決の取り組みを展開。7つのプロジェクトが年間300回以上の現場に、2500人以上の若者が参加している。札幌学院大学では、ボランティア・マネジメント論を担当している。

第4回 (10月11日) 田邊 真理恵 ●株式会社フアの森代表取締役

下川町の森から生まれた香りと地域での私たちの役割

千歳市出身。北海道大学経済学部経営学科卒業。プライダルフ生花やインターネット販売の仕事を経たのち、2007年に下川町へ移住し、下川町森林組合で精油事業を担当。2008年、NPO法人森の生活へ事業とともに移り、2012年には歴代の事業担当者として株式会社フアの森を設立。現在も地域の森林資源を活用した精油関連事業を行っている。共著書『森ではたらく!』

第5回 (10月18日) 安達 重好 ●株式会社KITABA

WITH・DESIGN・つなぐ

山形県出身。東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科卒業。2008年株式会社キタバランドスケーププランニング入社。同年12月より株式会社KITABA (合併による名称変更) 勤務。

人・地域・暮らしをテーマに持続的なコミュニティ形成、総合計画、景観計画、支え合い・助け合いのある住宅計画、地域マネジメントなどのまちづくり支援を担当。

第6回 (10月25日) 桑原 稔明 ●皆楽社 (KAIRAKUSYA) 代表

地域おこし協力隊事業からのひとつづくり・まちづくり

札幌で生まれ育った60歳。日本大学法学部新聞学科卒業。市内のホテル・レストラン会社に30年勤めた後、地域おこし協力隊事業から「ひとつづくり」を進める道内の自治体と連携する合同会社北海道観光まちづくりセンターで人材開発室長に就く。2002年から2年間、新潟大学経済学部非常勤講師。現在は羊蹄山麓の留寿都村で一般社団法人留寿都村ふるさと振興会社の支配人として「道の駅230ルズツ」をステージとした協力隊員とのひとつづくりを実践中。

第7回 (11月1日) 堀 直人 ●江別市議会議員

21世紀の自治

1981年、札幌市生まれ。3歳から、江別市育ち。大学中退後、広告、デザイン、マーケティング、ブランディング等の業務に従事。2010年4月、NPO法人北海道冒険芸術出版を設立し、「北海道裏観光ガイド」、「n次創作観光—アニメ聖地巡礼／コンテンツツーリズム／観光社会学の可能性」(著:岡本健)を発行。その後、日本編集株式会社の設立、札幌市都市景観アドバイザー (2013年度・2014年度) 等を経て、2015年5月より、江別市議会議員。

第8回 (11月8日) 平澤 亨輔 ●札幌学院大学経済学部教授

公共交通とまちづくり

長野県出身。北海道大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学修士。1984年札幌学院大学商学部助教授。1999年札幌学院大学経済学部教授。現在に至る。専門は都市経済論。

第9回 (11月15日) 加藤 知愛 ●北海道大学国際広報メディア・観光学院博士課程

NPOが主導する経営形態—日本型社会的企業：地域コーポレーションモデル

札幌市出身。北海道大学国際広報メディア・観光学院博士課程に在籍し、「公共合意形成」「産業創造」「社会的企業」「NPO」等を研究する傍ら、研究成果をフィードバックするための株式会社イディアリスを2012年に設立した。主な著書は「社会的企業による雇用創造に関する研究—韓国の社会的企業育成政策を事例に— (2013)」「北海道グリーンファンドの経営形態に関する事例研究(2017)」「国際広報メディア・観光学ジャーナル」。

第10回 (11月22日) 滝口 由美
●一般社団法人北海道中小企業家同友会くしろ事務所事務局長

まちづくりと「人づくり」

由仁町出身。札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科 (修士課程) 修了。2010年4月より、中小企業の経営者が所属する経済団体、「一般社団法人 北海道中小企業家同友会」に新卒採用される。初任地は、十勝 (帯広)。2013年2月より釧路事務所 (現:くしろ事務所) に勤務。十勝管内1市18町村、釧路管内1市7町村、根室管内1市4町の経済、まちづくりの現状と課題に向き合う毎日を送っている。

第11回 (11月29日) 山本 幹彦 ●NPO法人当別エコロジカルコミュニティー(TEC)

持続可能な社会をめざした教育的アプローチの紹介

京都出身。財団法人京都ユースホステル協会にて20年間勤めたあと、2000年に北海道に家族と移住、2002年にNPO法人当別エコロジカルコミュニティーを設立し、代表を務める。『子どもが地球を愛するために (センス・オブ・ワンダーワークブック)』(1999年、人文書院) 監訳など数冊。北海道教育大学札幌校非常勤講師など。

第12回 (12月6日) 上仙 純也 ●岩見沢市経済部観光物産振興課観光振興係長

地域に飛び出す市民活動の実践

札幌市出身。1994年札幌学院大学法学部卒、同年岩見沢市役所入庁。税務課 (市民税)、保護課にて勤務後、3年間総務省の外郭団体に派遣 (東京と豪州 (シドニー) にて国際交流の仕事に従事)。帰国後は市民相談、生涯学習、国際交流の担当を経て、2016年4月から観光振興を担当している。北海道自治体学会運営委員の他、地元岩見沢での各種市民活動に参加。

第13回 (12月13日) 近江 正隆 ●株式会社ノースプロダクション代表取締役

ひとつづくり×まちづくり=みらいづくり

東京都目黒区生まれ。都立戸山高卒業後、北海道で酪農実習。浦幌町で漁業に従事。(株)ノースプロダクションを設立。うらほろスタイル推進地域協議会設立。

NPO法人食の絆を育む会理事長・浦幌町総合振興計画審議会委員・北海道教育大学釧路校非常勤講師・北海道地域づくりアドバイザー・北海道生涯学習実践支援事業検討会議委員・北海道農協青年部協議会農村ホームステイアドバイザー・うらほろスタイル推進地域協議会事業コーディネーターなどを務める。

第14回 (12月20日) 西村 宣彦 ●北海学園大学経済学部教授

財政破綻からの再生—リスタートする夕張市の挑戦引率

兵庫県尼崎市出身。京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。2003年4月に北海学園大学へ赴任。専門は地方財政論、持続可能な発展論。夕張市には2006年の財政破たん発覚以降10年以上通い続け、2016年3月に「夕張市の再生方策に関する検討委員会」委員として、緊縮財政—辺倒の財政再生計画の全面改定を提言。共働きの3児の父として家事・育児と仕事の両立に悪戦苦闘中。

第15回 (1月17日) 石井 和平 ●札幌学院大学法学部教授

全体のまとめ

愛知県出身。学習院大学法学部卒業。小樽商科大学大学院商学研究科博士課程修了。博士 (商学)。市政学並びに地域経営を専門とする。エベネザー・ハーワードの田園都市構想をベースに、アンソレーションとしてのコミュニティ形成の理論を構築中。目下、コミュニティ・ビジネス、ソーシャル・イノベーション、アーバン・パーマカルチャーなどの領域を通じて、「地域に学ぶ教育」の実践を企図している。北海道自治体学会運営委員。



札幌学院大学

受講料は無料で、どなた様でも受講できます。人数の制限はありません。事前に申し込む必要はありませんので、当日直接会場までお越し下さい。